

〔更科日記〕そのつとめて、そこを立て下つきの國と武藏の境にて有ひと井がはといふ、かかみのせまつきとのわだりの津にとまりて夜ひとよ舟にてかづく物などわたす、○中野山葦荻の中を分ぐるより外の事なぐて、武藏と相模との中に有て、おまた川といふ、在五中將のいざごとどはむとよみけるわたり也、中將の集には、すみだ川とあり、舟にて渡りぬれば、相模の國になりぬにしとみといふ所の山、よくかきたらん屏風をたてならべたらんやうなり、

○按ズルニ、ひと井がは下總國江戸川ニテ、あすた川ハ舊ク下總國ト武藏國トノ境ニ在リシ隅田川ナリ、而ルニ本書ニ、下總國ト武藏國トノ境ニ在ルヲひと井川ト爲シ、武藏國ト相模國トノ中ニ在ルヲあすた川ト爲セルハ誤ナリ、事ハ渡篇大井渡ニ引ク武藏國隅田川考ニ詳ナレバ、宜シク參看スベシ、

〔續視聽草二集十〕武藏國略圖附略考

淺草川舊名荒川、世俗兩國川ト云以東新武州の地は、古昔下總の國に屬せしを、後世變革ありしと云事は、皆人の知る處なれど、その國界改りし年歴を未だ詳にせず、江戸砂子等に、元祿或は貞享中の事と云は、もとより無稽の説にして論ずべくもあらず、現に正保の比成しと云御國繪圖には、利根川國府臺下を流る、川筋也以西を武藏國に屬したり、又天正十九年、葛西金町村の鎮守香取社へ御寄附ありし御朱印の文にも、武藏國葛西金町郷と記されたれば、是よりさきに改りし事疑ふべくもあらず、予○三島政行前に地理志編集の事に與りし時、私に葛西志と云もの編録して奉りし頃、此變革の證を得まく思ひて、普く募りしに、たまく或村民の家に傳へし古文書一通を得たるもの、右に摸刻せるが如し、○摸刻略之、但此文書收載郷條、此書年代記ざれど、政助は古河公方政氏の家老にて、築田大炊頭といびし人なれば、その時代推て知るべく、且平沼の郷と書じは、今の二郷半領平沼村なれば、此頃既に武州と唱へし事證すべし、然れば、たゞに天正頃のみならず、其改りし事の古きを知べ